

第3回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和2年8月28日(金) 午後2時00分～午後5時00分
- 開催場所 富良野文化会館 大会議室
- 出席者 <委員>北会長、荒木委員、松村委員、山崎省委員、倉西委員、柿崎委員、藤田委員、平間委員、小玉委員、遠藤委員、吉中委員、飯沼委員、黒木委員、山崎留委員、岩井委員 (計15名)
※欠席委員 石川委員、菊地委員、加茂委員、吉本委員、林委員 (計5名)
<事務局>稲葉総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長、川上経済部長、小野建設水道部長、亀淵教育部長、藤野財政課長、関澤企画振興課長、入交企画振興係長
<受託事業者>フラノデザイン(株) 大曾根、原田

1. 開会(午後2時00分)

- ・事務局より、欠席者について報告

2. 市長挨拶

- ・連日暑い日が続いていますが体調管理に十分気を付けていただきたいと思います。
- ・先日、地域センター病院運営委員会があった。地域センター病院では、感染症病床を4床持っており、新型コロナウイルスに適切に対応していただき、感染の拡大にならずに済んだところである。感染症病床を持っていることで風評被害ではないが患者が激減しており、患者が減れば病院経営も厳しくなっている状況である。患者が減っている一方、新型コロナウイルスの感染防止の取り組みにより、子どもたちの感染症が非常に減っている状態とのことであります。
- ・ウィズコロナ、アフターコロナに向け、生活環境の中で病気から自分たちを守る生活を定着させていくことが、生活様式を変えていくことにつながっていくのではないかと考えております。
- ・意識改革の中で市民力を高めていくことが、総合計画・総合戦略にもつながっていくのではないかと考えておりますので、ご議論の程よろしくお願い致します。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

3. 議題

【北会長】

- ・議事に移りますが、有識者会議は、フラノデザイン株式会社にコーディネートをお願いしておりますので、よろしくお願い致します。

(1) 総合計画基本構想原案について

資料1に基づき、フラノデザイン 大曾根より説明

【荒木委員】

- ・総合計画と総合戦略に違和感がある。
- ・総合計画は誰のため、何のためにつくるのか。

【関澤企画振興課長】

- ・キックオフ資料として事前送付した中に、第6次富良野市総合計画の策定に向けてということで、総合計画と総合戦略について説明させていただいている。
- ・手元の補足資料の中でも触れていますが、総合計画の前提・大切な視点として「ヒト」が中心であることとしています。

【荒木委員】

- ・市民のためは理解したが、何のためが抜けている。
- ・私が十数年前、このような会議の座長を務めたときに市役所が何をするとところかを議論した時に、市役所は市民が幸せを感じる生活をするための施策の企画、立案、実施となり、キーワードは安全、安心、快適、豊かさ、健康となった。
- ・この町に住んでいて良かったと思うためには、一定の収入が必要である。
- ・これまでの提案は、未来を語る部分が多く、課題解決の部分が議論されていない。

- ・計画を作っただけ終わらせないためにも、具体的な手法等を議論していく必要がある。

【フラノデザイン 大曽根】

- ・今のご意見の部分は、この後の総合戦略にもつながっていく部分だと思います。
- ・未来を創る部分と課題解決の部分は、両方の側面を大切にしていくことで議論をしているところです。

【黒木委員】

- ・有識者会議委員任期の2年間でどう進んでいくのか。

【関澤企画振興課長】

- ・今年度は協議いただいている総合計画の基本構想、総合戦略の策定となり、来年度は実施状況や効果の検証を行うこととなる。

【松村委員】

- ・基本構想原案について、全体的に創り込まれており、深みがあり、素晴らしいと思う。
- ・最終的に基本構想としてまとめていく時に、裏でどう語られていたかを残していく必要があるのではないか。
- ・デジタルファーストは気になる。少なくともファーストではない。方法、手段としてもファーストではなく、もっと情緒的なところが大事な気がする。
- ・ICTの力が発揮されるのは大都会であり、田舎ではダメにする場合もあるので、ICTの活用には注意する必要がある。
- ・SDGsとの整合性は、SDGsより富良野市の基本構想の方が大事で、SDGsは国連が全世界を網羅するために作られており、そこをより所にする必要はない。
- ・「美しい」には、農業などの生業の美しさもあるのではないか。
- ・かなり夢の方にシフトしている基本構想であるが、夢があることで政策のより所ができると思う。

【荒木委員】

- ・富良野市で考えたときに何がデジタルか。今の段階ではデジタルファーストで行ってほしい。
- ・富良野市でどれだけデジタル化ができるのか。デジタル化により、単純反復作業は今後無くなっていく。
- ・デジタルを制御、システムを設計、データの活用分析などマネジメントできるなどの人材は必要となる。
- ・介護や看護、観光、クリエイティブなどは、必ず人間でないとできない部分もある。
- ・デジタルは今後必要だが、人と人をつなぐ場合に、デジタルファーストだとつながりをやめることとなるのではないか。
- ・デジタルは、道具であって目的にはなり得ないので、必要なものを使うかは計画や施策レベルで考えていけば良いのではないか。

【フラノデザイン 大曽根】

- ・策定委員会等でも、ファーストでいいのかという議論をしているところです。
- ・委員皆さんから、感想等コメントをいただければと思います。

【藤田委員】

- ・コンセプトなどは気に入っており、富良野らしい表現になっている。
- ・わかりやすく、インパクトがあるかは悩ましいが、常に言い続けていくことが大切と感じる。

【小玉委員】

- ・人と人とのWAが基本となって、この計画が作られていくと感じている。
- ・デジタルは高齢者には使いこなす難しいので、わかりやすい表現にしてほしい。

【吉中委員】

- ・基本構想原案を目の前にして、素晴らしいものができてきていると感じている。

- ・誰のためは市民のためが重要であり、自分が幸せになるための共創が原点である。
- ・デジタルは手段であり、人が中心でなければならない。人と関わる仕事を作っている方がいいのではないか。
- ・SDGs が持てはやされているのは、持続可能ではない世の中であらわれだと思う。持続可能にするために我々一人ひとりが努力しなければならない。

【松村委員】

- ・大事なのは大都会の価値をそのまま持ち込まないことだと思う。もともとの価値や富良野のユニークさを大事にしていく必要がある。

【平間委員】

- ・若い方に未来を託したいと思います。

【山崎省委員】

- ・将来の子どもたちの幸せのために子どもたちを日々支えています。富良野の人や自然、歴史など様々な環境の中で育てていこうと考えている。
- ・その中で人との環境は、今後人口が減り、関わりが減っていくので、人の WA は賛同する部分である。

【倉西委員】

- ・全体的には良いと思う。
- ・コロナもそうだが、明日何が起こるかわからない中で、色々なリスク想定して矛盾が生じないようにする必要がある。

【黒木委員】

- ・デジタルファーストだと置いて行かれるイメージを持つ人がいるのではないか。
- ・共創は大事であり、市民と行政が共に創っていく流れができれば良いと思う。

【山崎留委員】

- ・ファーストよりフラッグの方が言葉やデザイン的にも良いと感じた。
- ・視覚的なデザインの部分で文字の頭をそろえた方が良いと感じた。

【遠藤委員】

- ・基本構想の前段にわかりやすく目的や考えを入れるべきではないか。

【荒木委員】

- ・今いる人たち全員がどう幸せを感じるかが基本であり、更に未来もいいよねという形が必要である。
- ・総合計画は行政の憲法みたいなものなので、何をするかを明確にし、KPI を設定する必要がある。

【岩井委員】

- ・ファーストよりフラッグの方が言葉やデザイン的にも良いと思う。
- ・フラッグのデザインも、もうちょっと工夫するとリズムがある感じになるのではないか。
- ・「美しい」に、田畑などの暮らししてきた、作られてきた美しさも表現すると良いのではないか。

【飯沼委員】

- ・デジタルファーストは、デジタルは道具であり、ファーストは人でないか。もっと人を大事にしないといけない。人が道具であるデジタルをどう使っていくか。
- ・この町に住んでいて良かったと思えることが、ファーストではないか。
- ・総合計画がこの町の憲法となるので、個別計画とリンクさせ、つくることが目的の計画とならないように検証していく必要がある。

【柿崎委員】

- ・メッセージやコンセプトなど、すごく素敵だと感じた。これをどう活かしていくかが大事だと思う。

- ・小学校の先生をしている中で、富良野の魅力を子どもたちに聞いたとき、数分の間にたくさんの良いところが出てきた。改めて子どもたちが富良野のことを好きだと感じた。子どもたちが自分たちの町に魅力を持っていけるようなまちづくりが必要であると感じた。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・今いただいたご意見は持ち帰り、引き続き協議したいと思います。

(2) 将来人口推計について

資料2に基づき、北海道立総合研究機構北方建築総合研究所 松村副所長より説明

【荒木委員】

- ・今後、人口分析から KPI を作ろうとしたときに乖離しないように注意しなければならない。
- ・SDGs は全体的な話であるが、急激な人口減少だと SDGs はすべて崩れるので、どう捉えていくかが必要である。
- ・人口減少の問題は出生率だけでなく、子どもを産む女性の数が非常に大きい。
- ・地元から出ていくと戻らないケースが多いので、地元高校のレベルをあげることによる対応方法もあるのではないか。
- ・富良野市は移住者が多いと思うので、そのネットワークを活かし、対応の仕方によって変わるものもあるのではないか。

(3) 総合戦略について

資料3に基づき、フラノデザイン 大曾根より説明

【荒木委員】

- ・総合戦略できちんとした KPI を作ってなく、それに対する施策も打てていなかった。人口全体をどう見立てていくかもなかった。
- ・他自治体では、社人研予測より上回る取組を実践している。
- ・テレワークが進む中で、魅力のある町は、人の移住が見込めるのではないか。
- ・体制で共創が一番必要なのは市役所ではないか。庁議で実効性あるものを実行できる体制を作り、KPI を達成するために取り組んでいく必要がある。

【吉中委員】

- ・農業担い手育成センターの KPI が達成している要因は何か。

【川上経済部長】

- ・研修を受けた成果による就農、人材のマッチングや掘り起しなど機能していると考えている。

【吉中委員】

- ・新規就農者がそんなにいたのかという感覚がある。この数字が続けばいいが、現実はその行かない気がする。
- ・新規就農者の募集にあたっては、自分のやりたい作物や場所などニーズにあったものに考え直す必要があるのではないか。

【松村委員】

- ・指標のターゲットや数字の持つ意味を明確にしておく必要がある。
- ・数字で表すことが難しいものをどう評価するか。アンケートなど定性的なものでも良いのではないか。

【荒木委員】

- ・新規就農者もいれば離農者もいるので、農業総生産額や収穫量などトータルで見る必要があるのではないか。これは農業に限らず商業なども言えること。
- ・みんなの感覚を数値目標にすることはマルシェなどでの実践しており、内閣府も認めている。
- ・市民がみんな幸せを感じるがキーワードで、それを KPI にするのも良いのではないか。

【黒木委員】

- ・新規就農を希望する人に対し、可能性の芽を摘んでしまっているのではないか。
- ・ニーズに合わせて、チャレンジを受け入れる場所を作してほしい。

【飯沼委員】

- ・富良野市は新規就農のハードルが高いと言われている。成功している人もいると思うので、行政や農協などが人に寄り添ってサポートしていく必要がある。

【岩井委員】

- ・子どもたちが地元の魅力を発見できるような体験の機会があると、子どもたちが大人になった時に地元の魅力を伝えることができ、それだけでも宣伝効果になるのではないか。
- ・地元愛が生まれ、外に出ていっても戻って来たくなるようなこともあるのではないか。子育ての時に実家のサポートは大きいので、富良野は環境が良いので戻ってくるきっかけになっていくのではないか。

【荒木委員】

- ・アウトドアは富良野の1つの財産であるが、地元の大人たちが体験できていないことは子どもたちも体験できていないのではないか。教育の一環として子どもたちに体験させてはどうか。
- ・KPIについては、色々なKPIを作った中で、実現可能なものを選択していく必要がある。
- ・富良野ならではの指標を作る際に、他自治体との比較ができることも必要になってくるのではないか。

【黒木委員】

- ・市民の生の声を聴く場を定期的実施していく必要があるのではないか。
- ・アンケート調査だと無難な回答を選んでしまっているのではないか。
- ・子どもたちと一緒に問題を共有し、考え、意見を聴くことも大事ではないか。そういった経験が次の世代を担うのは子どもたちの今後にもつながっていくのではないか。

【吉中委員】

- ・小中高生の意見を聴く場があっても良いのではないか。発想が豊か、アイデアもある、先入観もないので、まちづくりに活かしてはどうか。
- ・女性や移住者などのグループにも意見を聴いてはどうか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・今の話は、今回だけの話ではなく、今後そういった視点を取り入れて行くことだと思います。

【山崎省委員】

- ・毎年11月に「こども未来づくりフォーラム」を実施している。小学生が自分たちの地域のことを考えて将来のことを発表しているの、そういったことも参考にすると良いのではないか。

【荒木委員】

- ・時代とともに数字は変わるので、KPIも計画期間中にアップデートできるようにする必要がある。
- ・これまでKPIの達成に向けて施策を実施していたかという疑問に思う。問題や問題解決手法をわかっても取り組めていないので、未来に向けた取組と課題解決に向けた取組の両方を実施していく必要がある。
- ・1世帯当たりの子どもが多い自治体はどういう施策に取り組み、どういう指標を設定しているのかなど参考にする必要がある。

【松村委員】

- ・今の指標の設定は失敗が許されないつくりである。指標もチャレンジ度が見れるような仕組みを考えていく必要があるのではないか。

- ・共創を謳うのであれば、今後は市民にも痛みが伴うことも想定されるので、その部分を見せていく必要がある。

【荒木委員】

- ・やってみないとわからないことはあるので、共に創っていくのなら、色々な関係者を計画段階から巻き込んでいく必要がある。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・長時間になりましたが、色々ご意見等ありがとうございました。
- ・お手間になりますが、戦略の素材の1つのきっかけとしたいので、戦略事前検討用シートの作成にご協力をお願いします。

【北会長】

- ・本日も長時間に渡る進行ありがとうございました。

4. その他

- ・特になし

5. 今後の予定

- ・今後の有識者会議日程について事務局より説明

6. 閉会（午後5時00分）

【北会長】

- ・長時間に渡り、ご協議ご意見をいただき、ありがとうございます。
- ・今日もご意見は次に向けた取組として、貴重な部分が多くありましたので総合戦略に活かしていきたいと考えております。
- ・次の時代に向けたこと、まちづくりを含め、自分たちで創っていくんだという当事者意識を持ってご協議をいただきたいと思います。
- ・今回の総合計画、総合戦略の策定の仕方今までになかった取組ですので、委員皆さんのお力で成功の形に創り上げることお願い致します。